

CIGS エネルギー環境セミナー
「気候政策としてのエネルギー技術イノベーション」

日 時	9月30日(金) 15:30-17:00
会 場	キャノングローバル戦略研究所 会議室3 (東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11階)
講 師	杉山 昌広 (東京大学政策ビジョン研究センター 講師)
モデレーター	芳川 恒志 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)
言 語	日本語

開催趣旨

気候変動問題はエネルギー問題の表裏の関係にあり、エネルギー技術のイノベーションは(長期的な)地球温暖化対策にとって必須である。

海外ではエネルギー技術のイノベーションは一つの確立された研究分野になったが、日本における研究は限定的である。本発表では海外の文献をレビューすると同時に、米国における ARPA-E や、COP21 で発表された国際的なイノベーションの取り組み Mission Innovation など最近の取り組みを俯瞰する。その上で、日本におけるイノベーションの課題(特にクリーンテック・ベンチャーの立ち遅れまたはガラパゴス化)について議論する。

プログラム

15:30-15:35	趣旨説明 芳川 恒志
15:35-16:45	講 演 「気候政策としてのエネルギー技術イノベーション」 杉山 昌広
16:45-17:00	質疑応答と討論 モデレーター: 芳川 恒志

講師紹介

米国マサチューセッツ工科大学にて Ph.D. (気候科学) および修士号 (技術と政策) を取得。東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ特任研究員、一般財団法人電力中央研究所社会経済研究所主任研究員を経て 2014 年より現職。主な著書に『気候工学入門-新たな温暖化対策ジオエンジニアリング』(日刊工業新聞社、2011 年)、主な論考に Sugiyama et al. (2016, Nature) "Five years on from Fukushima" がある。